

ベトナム人介護技能実習生の実態について

— 来日から3年間の記録 —

*The Actual Situation of Vietnamese Care Worker Technical Interns**— A Record of Three Years Since Coming to Japan —*

加藤 豊二 KATO Toyoji

(留学生別科)

1. はじめに

日本は、世界でも最も高齢化が進んだ国の一つであり、『令和7年版高齢社会白書』によれば、2024年10月1日現在、65歳以上の高齢者は国民の29.3%を占めている。2070年には、2.6人に1人が65歳以上、約4人に1人が75歳以上の高齢者になると予測されている。このように日本では、65歳以上の高齢化率が過去最高を更新している(図1)。

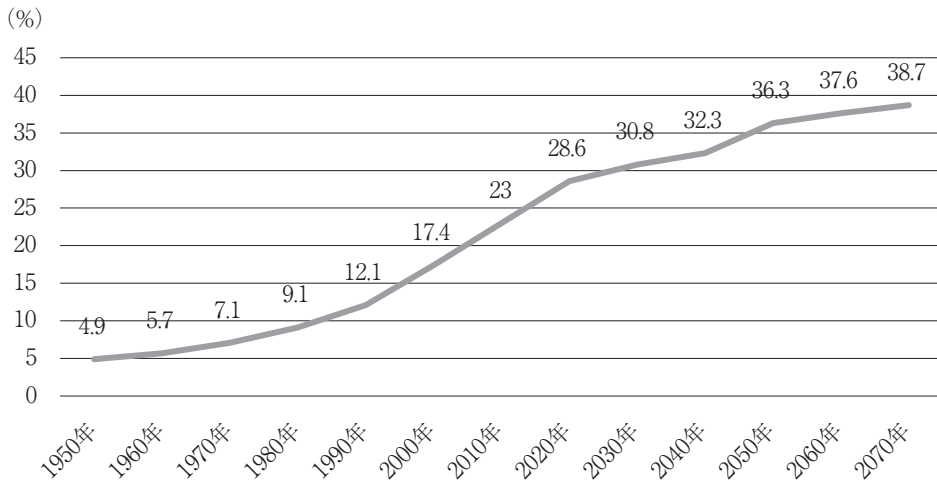


図1 高齢化率(65歳以上)の変化

*『令和7年版高齢社会白書』図1-1-2を元に加藤が作成

日本は高齢化社会であるが、この高齢化社会を支える介護人材は不足している。厚生労働省(2015)によると、2025年には約38万人の介護職員が不足すると予測されている。このように日本は厳しい状況であるが、これは、2025年以降には団塊世代が後期高齢者(75歳以上)になるからだ。そのため、要介護者の急増が見込まれ、介護職員の大幅な不足となるのである。

このような介護人材不足の背景のもと、国は様々な介護人材確保施策を展開しているが、その中の中心的な施策が「外国人材受け入れ」である。この外国人受け入れの具体的

な施策には、①EPA（経済連携協定）、②在留資格「介護」、③技能実習生、④特定技能1号の主に4つの種類がある（久留須2025）。

久留須（2025）等をもとに、この外国人介護人材受け入れの4制度を簡単に説明すると、次のようになる。

1 EPA（経済連携協定）

日本とインドネシア、フィリピン、ベトナムの政府間協定に基づき、各国政府が推薦した候補者を日本に受け入れ、介護福祉士国家資格の取得を目指す制度である。候補者は、来日後に日本語研修を受け、介護施設での3年間の実務経験を経て、4年目に受験をする。不合格の場合、1年滞在延長を行い、翌年合格すれば長期就労が可能となる。しかし、5年以内に合格できなければ、特定技能に移行するか帰国することになる。

2 技能実習

「技能移転による国際貢献」を目的とした制度で、介護分野は2017年から対象に追加された。実習生は介護施設で技能を習得することが目的であり、労働力確保を目的とした制度ではないと位置づけられている。在留期間は原則1～5年で、一定の技能評価試験に合格すると、上位の在留資格である「特定技能」等への移行が可能となる。

3 在留資格「介護」

日本の介護福祉士資格を取得した外国人が対象である。国家資格保持者の専門職として働くための在留資格であり、長期的・安定的に日本で介護職として働くことができる。EPAや特定技能から移行するケースも多い。

4 特定技能1号

深刻な人手不足分野に対応するために2019年に創設された制度である。介護分野では、一定の技能試験と日本語試験に合格した外国人が即戦力として働くことができる。在留期間は原則5年で、一定の条件を満たせば、訪問系サービスを含む介護業務に従事することができる。技能実習からの移行も多く、より実務的な就労制度として位置づけられている。

2021年時点で、上記の4種類の中で最も多数を占めるのは、技能実習生（70%）である。その中で最も多いベトナム人介護実習生に焦点を当て、ベトナム人実習生の実態について探ることにする。なお、現在は、特定技能1号が60%で最も多い。

2. 研究課題

- (1)ベトナム人介護技能実習生にとって、老人介護養護施設の、現場の仕事で大変なことは何であろうか。また、どのようなことを心配し、困っているのであろうか。
- (2)来日時の1年目から3回にわたって調査したが、時間を経ることによって、ベトナム人介護技能実習生には、どのような変化が見られるのであろうか。

(3)老人介護養護施設の日本人職員は、ベトナム人介護技能実習生のことをどのように感じているのであろうか。

3. 先行研究

外国人技能実習生に関する論文は多数見られる。来日前の送り出し機関についての問題、来日直後の状態、日本語力の問題等多数存在する。しかし、来日時から3年にわたって、外国人介護技能実習生の実態について調査した研究は、管見の限り見当たらない。

4. 調査の概要

4-1. 調査対象者

東海地方の老人介護養護施設に在籍する3人のベトナム人介護技能実習生に焦点を当て、2021年から2023年にかけて、介護施設および介護施設の寮において、調査者（筆者）と被調査者の1対1の半構造化インタビュー調査を実施した。調査にはICレコーダを使用し、承諾を得たうえで、録音、その後、文字化した。時間は1時間程度である（表1）。

表1 調査対象者（ベトナム人介護技能実習生）

名前	Hさん	Rさん	Kさん
性別	女性	女性	男性
年齢	26歳	27歳	21歳
来日年月	2020年12月	2020年12月	2019年10月
前職	調理師、介護職	会社員（電話会社）、 保育士	会社員（電気）
日本語レベル	N4	N3	N3

*年齢は1回目の調査時（2021年7月）のものである。

*日本語のレベルは3回目調査時（2023年7月）に取得済みのレベル。

実際には、HさんはN3の結果待ち、RさんはN1の勉強中であった。

以下に、被調査者である3人のベトナム人技能実習生について紹介をする。ただし、年齢は第1回目（2021年）調査時のものであり、日本語能力試験のレベルについては、第3回目（2023年）調査時のものである。

1人目はHさん。26歳の女性で、ベトナムの高校を卒業後、結婚し、調理師として2年、介護の仕事を1年9か月やったあと、日本語の勉強をし、2020年12月に来日した。来日時の日本語レベルはN4で、現在はN3の結果待ちの状態である。

2人目はRさん。27歳の女性で、ベトナムの大学を卒業後、電話会社で2年、保育士の仕事を1年した後、日本語の勉強をし、2020年12月に来日した。来日時の日本語レベルはN3で、現在、N2は飛ばして、N1の勉強中であり、2023年12月にN1を受験する予定である。

3人目はKさん。21歳の男性で、ベトナムの高校を卒業後、1年電気関係の会社で働

いた後、日本語を勉強し、2019年10月に来日した。来日時の日本語のレベルはN4で、現在はN3を取得している。

また、ベトナム人介護技能実習生と同じ介護養護施設に勤める2人の日本人職員に対しても、2022年3月20日に、同施設で、半構造化インタビュー調査を実施した。ベトナム人実習生と同様の方法で実施した（表2）。

表2 調査対象者（日本人職員） 2022年3月20日実施

クラス	Yさん	Sさん
性別	女性	女性
年齢	76歳	65歳
介護経験年数	10年	28年
施設勤務年数	10年	6年
実習生担当年数	3年	3年

*調査は、ベトナム人技能実習生の2回目のインタビュー時に実施。

以下に、2人の日本人介護職員について紹介する。

1人目はYさん。76歳の女性で、介護の経験10年、同施設の勤務年数10年、ベトナム人実習生を担当して3年になる。2人目はSさん。65歳の女性で、介護の経験28年のベテランである。同施設の勤務年数6年、ベトナム人実習生を担当して3年になる。

4-2. 調査項目

今回の調査でのベトナム人介護技能実習生および日本人介護職員へのインタビュー調査で聞いた項目は下記のとおりである。

(1) ベトナム人介護実習生

- 1 日本語 1) 能力レベル 2) 学習時間 3) 勉強手段 4) 学習意欲・使用意欲
- 2 介護技能実習生になろうとした動機
- 3 担当業務
- 4 現場の仕事で大変なこと 1) 対利用者 2) 対職員 3) その他
- 5 不安、心配事、困っていること 1) 対利用者 2) 対職員 3) 日本語コミュニケーション 4) 専門用語
- 6 心がけていること
- 7 利用者への声掛け・業務の申し送り・職員への報告
- 8 来日当初と現在の気持ちの変化
- 9 3年間の技能実習修了後の予定
- 10 介護福祉士国家試験の受験の有無
- 11 将来の夢

- 12 日本での介護実習の感想
- 13 後輩へのアドバイス

(2) 日本人介護職員

- 1 ベトナム人介護実習生は人材不足解消、日本人職員の労働力軽減につながるか
- 2 日本語コミュニケーション
- 3 ベトナム人実習生の利点と欠点
- 4 不安、心配事、困ったこと
- 5 入社当初と現在の気持ちの変化
- 6 改善点
- 7 何か言っておきたいこと

5. 結果

まず、ベトナム人介護実習生3人（Hさん、Rさん、Kさん）に対して実施したインタビューの結果について、1回目（2021年7月）、2回目（2022年3月）、3回目（2023年7月）と実施した順に述べる。なお、本来なら2回目の調査は、1回目の調査の1年後の2022年7月にすべきだったが、実際には2022年3月のデータであることをお伝えする。

また、1回目の調査では5人の被調査者を扱ったが、途中で2人が他の老人介護施設に転職したため、同じ老人介護施設に在籍し、3年間連続して調査できた3人を取り上げた。但し、3人の来日時期が異なる。Hさん、Rさんは1年目であり、Kさんは2年目である。来日時期は異なるが、あえて比較するため、3人を取り上げることにした。

また、このベトナム人介護実習生の仕事ぶりなどをどのように感じていたのかを知るため、同老人介護施設に勤めている日本人介護職員2人に対し、2022年3月に実施したインタビューの結果を述べる。

5-1. ベトナム人介護実習生

(1) 実習生Hさんの場合

1回目（2021年7月31日実施） 1年目

Hさんは26歳の女性であり、ベトナムの高校を卒業後、結婚し、調理師として2年間、介護の仕事を1年9か月した後、日本へ行くための勉強をし、2020年12月に来日した。ベトナムで介護の仕事をしていたが、お年寄りがかわいいし、離婚し、お金もほしいから日本へ行くことにした。日本の文化も料理も好きである。これが日本で介護技能実習生になろうとした動機である。

来日時は日本語能力試験のN4であり、12月のN3受験のため勉強中である。1月～5月は毎日3時間勉強したが、夜勤が始まった6月からは毎日1時間、休みの日は2時間勉

表3-1 Hさん (26歳女性) 2020年12月来日

回数	1回目 (1年目)	2回目 (2年目)	3回目 (3年目)
調査日時	2021年7月31日	2022年3月20日	2023年7月22日
録音時間	57分4秒	1時間8分36秒	1時間14分56秒
Q1: 日本語について ・レベル、学習時間 ・勉強手段、学習意欲	N4レベル 1月～5月 毎日3時間 6月～ 毎日1時間、休日2時間 * 漢字だけでなく、言葉、発音も難しい。	N4レベル (N3受験未) 休日 朝3時間 (日本語、専門)、夜1時間 (日本人との会話) iPadを使い、N3の動画を見て勉強する。	N4レベル (N3の結果待ち) 週2～3日1回2時間 (夜勤時)、休日2時間 夜勤の時は、日本語の勉強の後、日本人の職員と会話をしている。
Q2: 担当業務	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。但し、⑦は6月から、⑨は7月からである。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。
Q3: 現場の仕事で大変なこと	利用者の1人が「要らん」「あかん」と言う。また、暴力 (げんこつ) をふるう。	夜勤で利用者が寝ていない時が大変である。徘徊、トイレに1日30回行く人もいる。	大変だった利用者も亡くなり、よく怒る利用者もいないので、今は楽である。
Q4: 不安、心配、困っていること	ベトナムで勉強した「介護の日本語」のベトナム語訳が多く間違っており、困っている。今、仕事をよく間違えるので、少し心配である。	利用者が滑って転ぶことが心配である。1人の職員の日本語の発音がわからない。方言を使って速く話したり、英語を使ったりするので。	日本語のコミュニケーションで少しある。まだ多くの言葉がわからないので、少し困る。職員が増え、休みが増えたが給料が減った。
Q5: 心がけていること	特にない。	顔をよく見ることで、徘徊、トイレ介助、お風呂で滑ることもない。	特にない。
Q6: 3年間の修了後予定	特定技能実習生になりたい。介護の仕事がずっとしたい。永住したい。	全部で5年間、日本で働きたい。将来は、日本で子どもとっしょに住みたい。	ここでずっと働きたい。日本で仕事ができるように、介護福祉士の勉強をする。

* 「休日」は仕事は休みの日という意味である。

強している。夜勤の時は勉強できない。漢字が難しい。なぜなら漢字1字でいろいろな読み方があるので、なかなか覚えられない。また、覚えにくい上に、忘れやすいからなかなか覚えられない。日本語を勉強したい気持ちは強いが、漢字だけでなく、言葉、発音も難しい。

現在、担当業務は全部（①食事ケア、②口腔ケア、③排泄介助、④移動介助、⑤介助力、⑥与薬、⑦介護記録の作成、⑧申し送り、⑨月例会議への参加）担当している。但し、介護記録の作成は6月から、また、月例会議への参加は7月からである。

現場の仕事で大変なことは、利用者との関係では、利用者の1人が「要らん」「あかん」と言う。また、暴力（げんこつ）をふるう。ベトナムにおける利用者は、少ない上に、みんな病気で元気がないが、日本の利用者は元気だし、かわいい。また、職員との関係では、皆さんかわいいし、仕事を親切に教えてくれる。

来日前は日本語が一番心配だった。ベトナムのセンターで介護の日本語を勉強したが、日本と全く違っていた。ベトナム語訳がたくさん間違っており、困っている。介護福祉士の国家試験は、たくさん言葉がわからず、今年は無理なので、来年受験する予定である。

将来については、ここで3年技能実習生として働いた後、2年特定技能実習生になりたい。介護の勉強が好きなのでずっと介護の仕事がしたい。できれば永住したい。しかし、今は仕事をよく間違えるので、少し心配である。

2回目（2022年3月20日実施） 2年目

2021年12月の日本語能力試験N3は受験しておらず、N4のままである。2年目の日本語の勉強時間は、休みの日に朝3時間（日本語、専門）、夜1時間（日本人との会話）となった。1年目の6月からは普通の日1時間、休みの日2時間であったが、2年目は休みの日のみの勉強となった。普段は仕事で疲れ、なかなか勉強する時間は取れないが、休みの日は時間を増やし、きちんと勉強している。ちなみに、夜勤は1か月に7～9回あり、朝食も17人分作っている。iPadを使い、N3の動画を見て勉強をする。また、日本人の友達もでき、日本人相手に会話の勉強もしている。N3の漢字、文法と専門の漢字が苦手である。

担当業務は全部担当している。現場の仕事で大変なことは、利用者との関係では、夜勤で寝ていない時が大変である。徘徊、それにトイレに1日に30回行く人もいる。また、足や腰が悪い人がいる。職員との関係では特に大変なことはない。

不安、心配事、困っていることは、利用者との関係では、滑って転ぶことである。また、日本語のコミュニケーションでは、1人の職員の日本語の発音がわからない。方言を使って速く話すからである。また、時々英語で話すので、わからない。わからない時は、同僚のベトナム人研修生、日本人の看護師に聞いている。

心がけていることは、顔をよく見ることで、徘徊、トイレ介助、お風呂で滑ることもない。利用者への声掛けはできている。起こすと怒る人がいるので注意している。申し送りは

あまりできていない。書かないで話すだけである。日本人のリーダー、サブリーダーのみがしている。職員への報告は、メモを書いて話している。

施設では毎日日本語を使うが、利用者とは多く話すが、職員とは仕事のことだけである。日本人の友達が2人いる。いずれも新しい職員である。日本語の学習意欲は以前より強くなった。なぜなら、日本で暮らしたいし、また、言葉がわからないと面倒だから、学習意欲は強くなった。

3年間の技能実習修了後は、まだわからないが、全部で5年間、日本で働きたい。将来は、日本で子どもといっしょに住みたい。

3回目 (2023年7月22日) 3年目

入国時N4であったが、3年目の7月N3を受験した。調査の時点ではN3を持っているかは不明である。日本語の勉強時間は、夜勤の時、1週間に2～3日勉強している。1回2時間ぐらい勉強している。休みの日は、寮で1日2時間ぐらい勉強している。来日時からずっと、きちんと日本語の勉強をしている。外国人といっしょに日本語の会話の勉強もしている。夜勤の時は、1～2時間日本語の勉強した後、日本人の職員と会話をしている。また、担当業務は全部担当している。

現場の仕事で大変なことは、特にない。以前は日本語が下手だったので、利用者とも話しても時々わからなかったのが大変だったが、今は大丈夫である。利用者もHさんの日本語がわかるし、Hさんも利用者の日本語がわかるので、大丈夫である。職員とは、いろいろ話ができうれしいし、また、パーティーにもいっしょに参加し楽しい。

不安、心配事、困っていることは、利用者との関係では今は全くない。大変だった利用者は亡くなり、また、よく怒る利用者もいないので、今は本当に楽である。職員との関係でもない。職員も増え、休みも多くなり、楽になった。前は夜勤が1か月に8～10回あったが、今は6回だけである。しかし、日本語のコミュニケーションでは少しある。まだ、多くの言葉がわからないので、困る。わからない時は、同じ寮に住んでいる30代の日本人に聞く。以前は、寮はベトナム人のみであったが、今は、インドネシア人と日本人もいる。日本語を使わなければならないので、会話が上手になった。

心がけていることは、今はない。

日本で介護実習ができ、よかった。よく仕事をし、今仕事は何でもできるようになった。日本はとてもいい。食べ物おいしいし、みんな優しい。また、天気もいいし、空気もきれい。不満は、職員が増え、休みが増えたが、給料が減ったことだ。休みが多いから、出かけてお金を使うので、忙しいほうがいい。

将来の夢は、ここでずっと仕事、働きたい。介護福祉士の資格が取れば、日本で仕事ができるので、勉強しなければならない。息子を日本へ連れてきたい。

これから日本に来るベトナム人に対しては、次のようなアドバイスをしている。まず、

日本語を早く覚えたほうがいい。また、若い時に来たほうがいい。なぜなら、仕事が早く覚えられるからである。Hさんは、来日当初から介護の仕事が好きで、日本にずっと住みたいという気持ちが強かった。来日当初は、日本語があまり得意ではなかったが、地道に努力し、今、仕事の上ではほとんど困ることがなく、日本語でのコミュニケーションができるようになった。

(2) 実習生Rさんの場合

1回目 (2021年7月25日実施) 1年目

Rさんは27歳の女性であり、ベトナムの大学を卒業後、電話会社に2年、保育士の仕事を1年した。その後、日本語の勉強を始め、2020年12月に来日した。日本で介護技能実習生になろうとした動機は、離婚し、日本は給料がいいし、日本語の勉強もしたいので日本に来た。お年寄りや赤ちゃんみたいだから、保育士の仕事と似ている介護の仕事は好きである。

来日時は日本語能力試験のN3であり、現在、N1の漢字とN2の文法を勉強中である。お金がかかるからN2は受験せず、N1を受験したい。自分の子どもにも日本語を教えたいからN1を勉強しているとのことだ。1月～5月は毎日3時間、休みの日は8時間勉強した。夜勤が始まった6月からは普通の日には1時間、休みの日は2時間勉強している。夜勤の時は勉強できない。仕事と40分の自転車通勤で疲れ切つて勉強する気がなくなるのと、N1の教科書がないのが学習上の悩みである。

現在、担当業務は(①食事ケア、②口腔ケア、③排泄介助、④移動介助、⑤介助入力、⑥与薬、⑦介護記録の作成、⑧申し送り)を担当している。月例会議にはまだ参加していない。

現場の仕事で大変なことは、利用者との関係では、利用者の性格がわかりにくいことである。また、職員との関係では、仲間である日本人との人間関係が難しい。日本人とベトナム人では、習慣や考え方が違うようだ。

注意していることは、利用者には言葉だけでなく態度も優しくすることである。また、職員には、教えてもらったことは覚え、忘れないようにする。また、人間関係が悪くならないようにしている。

来日前に心配であったことは、日本語が通じるかどうかと、親元に預けた子どものこと、借金であった。介護福祉士の国家試験には、日本に5年いたらチャレンジしたい。また、将来は、帰国してベトナムで通訳になりたい。

2回目 (2022年3月20日実施) 2年目

2021年12月の日本語能力試験N1は受験しておらず、N3のままである。あくまで目標はN1を取ることであり、N2は受験しない。そして、娘に日本語を教えたい。2年目の日

表3-2 Rさん (27歳、女性) 2020年12月来日

回数	1回目 (1年目)	2回目 (2年目)	3回目 (3年目)
調査日時	2021年7月25日	2022年3月20日	2023年7月22日
録音時間	1時間4分20秒	50分20秒	55分19秒
Q1: 日本語について ・レベル、学習時間 ・勉強手段、学習意欲	N3レベル (N1受験未) 1月～5月 毎日3時間、休日8時間 6月～ 毎日1時間、休日2時間 N2を受験せず、N1を受験する。N1の漢字とN2の文法を勉強中である。	N3レベル (N1受験未) 毎日2時間、休日5時間 本やYouTubeでN1を勉強、N2の復習もしている。 子どもが心配で、学習意欲が下がっている。	N3レベル (N1を12月に受験予定) 毎日2時間 (疲れていない時)、休日8時間 日本語の教科書『総まとめN1』やYouTubeでN1を勉強している。
Q2: 担当業務	①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助入力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送りを担当している。⑨月例会議は参加していない。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助入力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助入力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。
Q3: 現場の仕事で大変なこと	対利用者—利用者の性格がわかりにくい。 対職員—日本人との人間関係が難しい。	電動自転車通勤が30分かかることだけが大変である。	特にない。職員はいつも優しく教えてくれるから楽しい。仕事は楽しい。「最高」である。
Q4: 不安、心配、困っていること	来日前に日本語が通じるかどうか、親元に預けた子ども、借金が心配だった。40分の自転車通勤で疲れること。N1の教科書がないこと。	お年寄りがむせて亡くなったこと、転倒が心配である。家族がコロナウイルスで陽性だったこと。	今は全くない。専門も全部わかるわけではないが、みんなに聞けるから大丈夫である。
Q5: 心がけていること	利用者には、言葉だけでなく態度も優しくする。 職員には教えてもらったことは覚え、忘れない。 人間関係が悪くならないようにする。	利用者の見守りであり、集中が必要である。転倒、事故、むせることに気をつけている。 利用者には、敬意を示して丁寧に話している。	特にない。 施設では、ゆっくり、簡単に話す。日本人の職員とは、丁寧な日本語を使っている。
Q6: 3年間の修了後予定	日本に5年いたら、介護福祉士の国家試験にチャレンジしたい。将来、帰国してベトナムで通訳になりたい。	子どもがいるから帰国する。以前は日本に住みたいと思っていたが、ビザが難しいので、今は帰国し、子どもをベトナムで育てたい。	特定技能実習生になりたい。あと2年と、介護福祉士国家試験に合格し、プラス5年いたい。特定技能がOKであれば、子どもを日本へ連れてきたい。

* 「休日」は仕事が休みの日という意味である。

本語の勉強時間は、毎日2時間、休みの日は5時間である。他の実習生が平日疲れて勉強できない中、平日でも2時間勉強している。本やYouTubeでN1を勉強、N2の復習もしている。学習の悩みは、教科書と日常の言葉が違うこと、話のスピードが速い上に、表現が難しいこと、N1、N2で勉強した言葉をみんなが使っていないことである。

現場の仕事で大変なことは、利用者との関係、職員との関係ではない。職員との人間関係にも慣れた。しかし、通勤が電動自転車ですら30分かかるとだけ大変である。

不安、心配事、困っていることは、利用者との関係では、お年寄りがむせて亡くなったこと、転倒が心配である。それから、家族がコロナウィルスで陽性だったことである。困った時には、同僚のベトナム人研修生、日本人の看護師に聞いている。

心がけていることは、利用者の見守りであり、集中が必要である。転倒、事故、むせることに気をつけている。

利用者への声掛けはできている。体調や顔の表情などを見て判断している。申し送りも難しくなく、うまくできている。また、職員への報告はiPadを使い、うまくできている。

施設では毎日日本語を使うが、利用者はお年寄りなので、敬意を示して丁寧に話している。日本人の友達はいない。日本語の学習意欲は以前より弱くなった。なぜなら、ベトナムにいる子どものことが心配だし、仕事で疲れ、やる気も下がったからである。それにもかかわらず、日本語の勉強は毎日続けている。また、使用意欲も弱くなった。利用者にも職員にも日本語を使わなくてもわかるからである。

3年間の技能実習修了後は、子どもがいるから帰国する。あと1年半日本で働きたい。日本に5年いたら、介護福祉士国家試験を受験する予定である。以前は日本に住みたいと思っていたが、手続きがたくさんあり、ビザが難しいので、今は帰国し、子どもをベトナムで育てたい。日本に1年3か月住んだ感想は、難しいが、日本の生活にチャレンジしたい。日本語にももっとチャレンジしたい。

3回目（2023年7月22日）3年目

入国時N3であったが、N2は受験はせずN1を受験したいと言っていたが、日本に来てから一度も日本語能力試験を受験していない。3年目の7月は受験せず、12月に受験する予定である。その理由はあまり勉強していないし、難しいからである。日本語の勉強時間は、毎日2時間、疲れていない時は勉強する。休みの日は、寮で1日8時間勉強している。来日時からずっと、きちんと日本語の勉強をしている。しかし、せっかく勉強していても試験を受けないと意味がない。特に、N1を目指すという気持ちはいいと思うが、現在N3を持っているなら、まずN2を受験すべきである。N3を持っているから大丈夫だと考え、勉強をしなくなったKさんも、ずっと続けて勉強しているRさんも、同じN3では、せっかく勉強を続けているのもったいないと思うからである。

日本語の教科書は『総まとめN1』とYouTubeでN1を勉強している。学習の悩みは、

N1の言葉はあまり使っていない。また、使わなかったらすぐに忘れてしまう。特に漢字はとても難しい。

現場の仕事で大変なことは特でない。利用者との関係、職員との関係、いずれも楽しい。特に職員はいつも優しく教えてくれるから楽しい。仕事は楽しい。「最高」である。また、前はベトナム人だけだったが、今はインドネシア人、ミャンマー人も入り楽しい。Hさんも同様のことを言っているが、この老人介護施設の日本人職員は、外国人実習生に対し、家族のように接し、気持ちよく働く環境を提供していると言えよう。これは本人達の普段の仕事ぶりがいいので、日本人職員もそのように接しているのではないと思われる。

不安、心配事、困っていることは、今は全くない。専門も全部わかるわけではないが、みんなに聞けるから大丈夫である。また、困った時は、介護をしながら、自分担当の仕事を教えてくれるベテラン職員に聞くから大丈夫だ。外国人実習生が1人で仕事を背負い込むのではなく、大変な時、わからない時には、日本人職員に気軽に聞くことができる環境が整っていると言えよう。ゆえに、来日時当初は不安があったが、今はない。

心がけていることは、今は特でない。利用者への声掛けはしていない。なぜなら、みんなの性格がよくわかるし、顔の表情を見ればわかるからである。申し送りは普通である。やはり、人間関係は難しいようである。職員への報告はきちんとできている。

施設では日本語を毎日使う。ゆっくり、簡単に話す。利用者の日本語は、わかる人は全部わかるが、病気の人の日本語はわからない。日本人の職員には丁寧な日本語を使っている。日本語の学習意欲は変わらない。ずっと強い。日本、日本語が好きだから。また、日本語の使用意欲は、前も今も同じでたくさん使っている。

日本で介護実習ができてよかった。日本語が勉強できたし、介護のやり方が勉強できてよかった。反省点は、利用者の事故があったが、もっと早く処置の仕方を勉強していたらよかった。しかし、今は大丈夫である。慣れたので、怖いこともなくなった。

2023年12月に3年になるが、特定技能実習生になりたい。つまり、あと2年と、介護福祉士国家試験に合格しプラス5年いたい。特定技能がOKであれば、子どもを日本へ連れてきたい。もう寂しくない、楽しいので、ベトナムに帰りたくない。

将来の夢は、日本が好きなので国に帰りたくない。今、勤めている老人介護施設をもっと大きくしたい、会社に貢献したいと思っている。10年はとりあえずいたい。できたら、延長したいと考えている。まさか「今勤めている老人介護施設をもっと大きくしたい」と考えていることに少し驚いた。それほど、この施設での居心地がよいということなのであろう。

これから日本に来るベトナム人に対しては、実習生はやらないほうがいい。たくさん勉強できるから、学生として来たほうがいとアドバイスをしている。ベトナム人学生の多くがアルバイトをしていることの実態を知らないようである。

日本に来る前にベトナム人の先生から聞いていた日本人のイメージとは違う。日本人も人間だからベトナム人と同じである。どこでも完璧な人はいない。だから、日本人もベトナム人と同じであると思ったようだ。ベトナムは嫌いではないが、日本のほうがいい。会社が好き、日本が好きだから、日本にいたいようだ。RさんもHさんと同様に、来日当初から介護の仕事が好きで、日本にずっと住みたいという気持ちが強かった。一時、子どもを連れてくるのに手続きが大変で帰国したいと言っていたが、それが解決したのか、やはり、日本に長く住みたいようだ。

(3) 実習生Kさんの場合

1回目（2021年7月25日実施） 2年目

Kさんは21歳の男性であり、ベトナムの高校を卒業後、1年間電気関係の会社で働いた後、1年間日本語を勉強し、2019年10月に来日した。介護技能実習生になろうとした動機は、親の勧めでもあり、日本語教師になりたいからである。介護の仕事なら日本語の会話ができるからという理由で来日した。純粋に介護の仕事がしたいわけではない。

来日時は日本語能力試験のN4であり、毎日3時間勉強したが、2年目は毎日1時間勉強し、N3に合格した。目標はN2である。一番難しい科目は読解である。

現在、担当業務は全部（①食事ケア、②口腔ケア、③排泄介助、④移動介助、⑤介助入力、⑥与薬、⑦介護記録の作成、⑧申し送り、⑨月例会議への参加）担当している。但し、来日6か月後から与薬、月例会議への参加が可能になった。

現場の仕事で大変なことは、利用者との関係では、おむつ交換、声掛け（起こす、着替え、入浴）であり、3か月は大変であった。また、利用者が認知症のため、説明しても理解してもらえないことが大変であった。これは、2年目の今も続いている。また、職員との関係では、来日後6か月は日本人職員が同行したが、言葉（日本語）がわからない。行動ではわかるが、言葉ではわからない。介護福祉士の国家試験は受験しない予定である。

2回目（2022年3月20日実施） 3年目

日本語能力試験N2は受験しておらず、N3のままである。3年目の日本語の勉強時間は1週間に3時間で、夜勤の時に勉強する。ちなみに、夜勤は1か月に7回ある。年数が経つにつれて、勉強時間が大幅に減少している。N2の勉強は本を見るだけであり、日本語が覚えられない。すぐに忘れてしまう。1年目毎日3時間、2年目毎日1時間、3年目1週間3時間と、来日当初のN3合格を目指していた時には、毎日3時間勉強していたものが、日本語のレベルが上がったN2を勉強するのに、この時間では日本語が覚えられない、すぐ忘れてしまうのも当然だと言えよう。

担当業務は全部担当している。現場の仕事では、利用者が転倒してしまう可能性が高いので、移動介助が大変である。

表3-3 Kさん (21歳、男性) 2019年10月来日 (他の2人より1年早く来日)

回数	1回目 (2年目)	2回目 (3年目)	3回目 (4年目)
調査日時	2021年7月25日	2022年3月20日	2023年7月22日
調査時間	36分16秒	50分16秒	51分21秒
Q1: 日本語について ・レベル、学習時間 ・勉強手段、学習意欲	N3レベル 毎日1時間 (*1年目はN4レベルで毎日3時間) N3に合格した。目標はN2である。	N3レベル (N2受験未) 1週間に3時間 (夜勤時) N2の勉強は本を見るだけである。	N3レベル (N2受験未) 1週間に1時間 (夜勤時) 介護福祉士国家試験のため、専門の勉強をする。
Q2: 担当業務	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。但し、⑥と⑨は来日6か月後から可能になった。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。	全部 (①食事ケア②口腔ケア③排泄介助④移動介助⑤介助力⑥与薬⑦介護記録の作成⑧申し送り⑨月例会議への参加) 担当している。
Q3: 現場の仕事で大変なこと	利用者が認知症のため、説明しても理解してもらえないこと。来日から3か月は、おむつ交換、声掛け (起こす、着替え、入浴) が大変だった。	利用者が転倒してしまう可能性があるため、移動介助が大変である。	特にない。
Q4: 不安、心配、困っていること	来日後6か月は、日本人職員が同行したが、言葉がわからない。行動ではわかるが、言葉ではわからない。	利用者は、足が悪い、腰が悪い人が多いので、介助が大変である。職員の言ったことが時々わからないことがある。	日本語のコミュニケーションは、普通の日常の言葉では大丈夫だが、特別な時と専門の言葉を多く用いている時は大変である。
Q5: 心がけていること	特にない。	ゆっくり介助する。薬を飲ませる時、すぐに吐くので、きちんと飲ませる。見守りをする。	ゆっくり介助する。薬を飲ませる時、すぐに吐くので、きちんと飲ませる。見守りをする。
Q6: 3年間の修了後予定	介護福祉士国家試験は受験しない予定である。	帰国の予定である。介護福祉士国家試験は無理だと考えている。	特定技能ビザを取ってからは、介護福祉士国家試験に挑戦すると考えが変わった。

* 「休日」は仕事が休みの日という意味である。

* 1回目は2年目であるが、1年目のことも記述する。

不安、心配事、困っていることは、利用者との関係では、足が悪い、腰が悪い人が多いので、介助が大変である。また、職員との関係では、職員の言ったことが時々わからないことがある。そのような時には、スマホで調べている。このわからないことは、専門用語（介助の言葉）であり、それが英語でなかったり、昔の言葉だったりするのが原因のようである。

心がけていることは、ゆっくり介助する。薬を飲ませる時、すぐ吐くので、きちんと飲ませる。見守りをする。利用者への声掛けはできている。申し送りもうまくできている。この申し送りだが、以前はノートでやっていたが、iPadに変わった。入力が楽になった。職員への報告は普通であるが、転倒などの事故の時、説明するのが難しい。

施設では毎日日本語を使うが、職員とはあまり話さない。仕事関係のことを話すだけである。ゆえに、よく話す内容のことはわかるが、その他のことはわからない。日本語の学習意欲は以前より弱くなった。使わなかったら、だんだん忘れる。

3年間の技能実習修了後は帰国の予定である。介護福祉士国家試験は無理だと考えている。現在の気持ちは、帰国したい。退屈、疲れたので。また、家族、友達に会いたい。

3回目（2023年7月22日） 4年目

3年目から日本語能力試験は受験していない。4年目の日本語の勉強時間は1週間に1時間で、夜勤の時に勉強するのみである。4年目は、日本語の勉強は全然しなくなった。時間がかかる、勉強したくない。N3があるから大丈夫だと言っている。しかし、日本語の勉強はやめたものの、専門の勉強をすることにした。なぜなら、来年、介護福祉士国家試験を受ける予定だからである。昨年10月には、3年間の技能実習は修了し、特定技能ビザに変更した。試験は日本語も専門も簡単だったようである。

担当業務は全部担当している。現場の仕事で大変なことは、今はない。

不安、心配事、困っていることは、利用者との関係では、以前は転倒するといけなから移動介助が大変であったが、今は大丈夫である。気をつけて誘導し、きちんと見守りをしているからである。また、職員との関係では、職員はみんな優しい。慣れてきたので大丈夫、すぐに対応できる。特に、若い職員がたくさんは入ってきたので仕事が簡単になった。若い職員は、理解が早く助けてくれるからである。日本語でのコミュニケーションは、普通の日常の言葉では大丈夫だが、特別な時と専門の言葉をたくさん用いている時は大変である。なぜなら、専門の言葉は難しいからである。いつもは日常の言葉を使っているので、専門の言葉は使っていないと、覚えられないし、すぐに忘れてしまう。

心がけていることは、ゆっくり介助する。薬を飲ませる時、すぐ吐くので、きちんと飲ませる。見守りをする。前回と同様の回答であった。利用者への声掛けはできている。ゆっくり話す、優しく話すように心がけている。申し送りもうまくできている。毎日やっているなので、もう慣れてうまくできている。職員への報告は普通である。特変（特別変

わったこと)などがあれば報告するが、いつもは「気をつけてください」と利用者には話すだけで、職員への報告はしていない。

施設では毎日日本語を使う。利用者には日常の言葉、職員には、日常の言葉も仕事の言葉も使う。昨年は職員とは話さなかったが、プライベートの話もするようになった。日本人の友達もできた。日本語の学習意欲は前回よりさらに弱くなった。来日直後は、組合の人になるべく早くN3を取るよう言われたので頑張ったが、N3を取ったので目標がなくなり、勉強しなくなった。代わりに、N2ではなく、介護福祉士試験に挑戦する。ちなみに、Kさんが働く介護養護施設での外国人の合格者はいない。

前は、退屈、疲れたので、帰国したいと言っていたが、特定技能ビザを取ってからは、無理だと考えていた介護福祉士国家試験にも挑戦すると、考えが変わってきた。

将来の夢は、介護福祉士になって10年ぐらい日本で働いてからベトナムに帰り、帰国後は他の仕事がしたい。1回目の調査では、日本語教師になりたいと言っていたが、学校の先生は大変だという情報を入手してからは、考えを変更した。

日本での介護実習の経験ができてよかったものの、これから日本に来るベトナム人に対するアドバイスは「ない」との返事だった。理由は、「若い人は日本へ行きたくない」と思っている。円が安くなり、日本よりも給料が高いオーストラリア、ヨーロッパの国へ行くからである。ある意味、「若者の日本へ行きたくない」は正直な感想だと思われる。

5-2. 日本人介護職員

ベトナム人介護実習生と同じ老人介護養護施設に勤める日本人介護職員2人に対するインタビューの結果を紹介する。実習生に対する2回目のインタビューをした2022年3月20日に、同老人介護養護施設で実施した。

(1) 介護職員Yさんの場合

Yさんは76歳の女性であり、介護経験が10年、ベトナム人介護実習生を3年担当している職員である。Yさんの実習生に対する感想は以下のとおりである。

ベトナム人介護実習生は、人材不足解消につながっており、大変助かっている。よく働き、明るく、優しいので介護に適している。以前は、休日が少なかったが、彼女らのおかげで少し楽にさせてもらっている。日本人職員の労働力軽減にもつながり、ベトナム人実習生はなくてはならない人材である。また、職場にも溶け込んでおり、みんなから好かれており、上司も長く勤務してほしいと思っている。

ベトナム人実習生は、真面目で、素直で、文句も言わずに要望に応じてくれる。人懐っこく、かわいいし、自分たちの子どものように感じている。しかし、介護に必要なコミュニケーションは取れているが、深いところのコミュニケーションはできていない。気楽に返事をするが、通じていなかったりすることもある。

入所時と比べると、日本語が十分上手になり、職員同士でも、利用者にも通じるようになった。落ち着いているし、自信を持っているように見える。しかし、介護的な言葉であれば通じるが、普通の雑談はあまりできない。

日本語での不自由は感じないし、漢字がわからなければ聞いてくる。自分なりにやっているの、それでいいのではないかと見ている。コミュニケーション面で不足している点もない。利用者に対して助け舟を出す面もないし、職員に対するトラブルもない。

ベトナム人実習生に対して不安、心配事、困っていることはない。逆に、日本人職員よりも正確かもしれない。普通のコミュニケーションであまり不都合に感じたことはない。申し送りは別として、専門用語も、わかりやすく書くことが基本なので大丈夫である。

Yさんからは大きな不満は聞かれないが、どうすればもっとよくなるのかを聞いたところ、コミュニケーションはきちんとできているが、もっと深いところでコミュニケーションをしたいなら、もっと勉強をしたほうがいい。やはり、お年寄りの言うことに耳を傾け、それに対して答えられることが大切であるとのことである。

お年寄りは昔のことしかしゃべらないから、最初は言葉も通じないし大丈夫かなあと思っていたが、今は自信に満ちていると感じる。仕事はいつも一生懸命で、初めから積極的で、職場では一切ベトナム語を使っておらず、日本語もずいぶんうまくなり、言葉がスムーズに、流暢になってきた。

ベトナムには、日本のような老人介護養護施設もないし、家族で、家でお年寄りを見ている。介護という仕事を好いてくれているベトナム人実習生には、この介護の仕事を日本でずっとやってほしいと思っている。

(2) 介護職員Kさんの場合

Kさんは65歳の女性であり、介護経験が28年のベテランであり、ベトナム人介護実習生を担当して3年になる。Kさんの実習生に対する感想は以下のとおりである。ベトナム人介護実習生は、人材不足解消に非常に繋がっており、日本人職員の労働力軽減につながっている。コミュニケーションの問題はないし、字もきれいで漢字も上手ですごいなあとと思っている。大いに歓迎しているし、本当に頼りにしている。

まず、ベトナム人実習生は若いので体力がある。また、お年寄りに優しい。話し方も優しいし、優しく接してくれる。私たち日本人職員も見習わなければならない。しかし、日本語の理解が不十分なところがある。わかったと言っているが、わかっていないところも多少あるので、ベトナム人実習生に対しては、難しい言葉ではなく、易しい言葉、わかりやすい言葉で話そう、説明しようと思っている。

入所時と比べると、言葉にも慣れ、日本人職員が話すことも理解してくれるし、自分から進んでやってくれる。業務の流れを理解し、お願いする前に既にやってある。利用者に対しては、にっこりと話しかけており、不足している点はない。また、職員の言ったこと

に対し、素直に聞いてくれるいい子ばかりで、荷物運びとか、ちょっとお願いしたことも、すぐやってくれる。

しかし、日本語で自分の考えは言えるが、プランに対しての意見を書く書類をお願いしても、後回しにする。また、書いてあることがなかなか理解できないこともあるが、利用者への思いはすごく感心する。

ベトナム人実習生に対して不安、心配事、困っていることについては、対応は考えてやってくれるし、基本優しいので特にない。また、日本人職員の性格をよく理解し、その人への対応ができています。不安としては、車椅子の操作が少し速いので、ゆっくりやってもらったほうが危なくない。また、以前、寮に人を呼んでいることがあったようだが、コロナの時期で口酸っぱく言っているのだから、わかってきていると思う。日本語のコミュニケーションは、きちんと返事はするが、本当のところはどうかなあとすることがある。専門用語については、指導員がかみ砕いて教えているし、何でも1人でやらないで、誰かを呼んでいっしょにやるように言っている。職員への報告は、まあまあであるが、報告しなければならぬ判断を迷うこともあるようだ。

こうすればもっとよくなると思うところは、決められたことを適切にやり、書類等の提出物を、日にちを守って出せるようにしてほしい。

入所当初は、自分たちもなじめるのかなあと思っていたが、今は本当に日本人と同じような感じで、本当にありがたい存在で頼りにしている。いろいろなことに気づき、教えてくれる本当にいい子たちである。若い力、すごくありがたく思っている。これからも日本にいてもらいたい。

6. 考察

6-1. ベトナム人介護実習生

(1) 日本語のレベル・学習時間

まず、ベトナム人介護技能実習生の日本語能力のレベルは、入国時はN3が1人、N4が2人であったが、3年目の調査時においては、N3が2人と、もう1人がN3の受験が終わり、結果待ちの状態であった。いずれにせよ、3人ともN3以上の力は持っていると言えよう。しかし、日本語の勉強時間は、入国時はいずれも毎日3時間と多く勉強しているが、夜勤が始まる6か月後から、疲れて普通の日の勉強時間は減り、夜勤の時と休みの日だけ勉強する実習生が多くなっていく。仕事をしながら、特に夜勤がある仕事をしながらの勉強は大変であるが、よく頑張っている。

(2) 現場での大変なこと

次に、1年目の現場での仕事で大変なことは、利用者との関係では、人それぞれで、男性のKさんは、おむつ交換、声掛け（起こす、着替え、入浴）であるが、女性のHさん

は、言葉、暴力（げんこつ）が、もう1人の女性のRさんは、利用者の性格がわかりにくいことが大変だった。これは、ベトナムでの経験の差が表れたのかもしれない。男性は介護の経験がなく、女性2人は、Hさんは介護の経験があるし、また、Rさんは保育士の経験があり、お年寄りを赤ちゃんみたいだから保育士の仕事と似ていると言っているだけあって、慣れているのではないだろうか。

また、職員との関係では、男性のKさんは、来日後6か月日本人職員が同行しても日本語がわからない。行動ではわかるが、日本語がわからない。Rさんは、日本人とベトナム人では習慣や考え方が違うので人間関係が難しいと言っていた。

2年目の現場の仕事で大変なことは、利用者との関係だけで職員はない。夜勤で寝ていない時が大変である。徘徊や1日にトイレに30回も行く人がいることだ。また、利用者が転倒しまう可能性が高いので、移動介助が大変である。足、腰が悪い利用者も多いので、移動させることは大変である。

しかし、3年目には、3人とも現場の仕事で大変なことはないと言っている。これは経験を積み、仕事に慣れてきた証拠だと言えよう。

(3) 不安、心配事、困っていること

現場の仕事で大変なことと重なるが、利用者との関係では、転倒、むせて亡くなること、それから、足が悪い、腰が悪い人が多いので介助が大変である。しかし、3年目には転倒の心配はなくなっている。これは、気をつけて誘導し、きちんと見守りをしているからである。

また、方言を使って速く話すので、職員の日本語の発音がわからない。多くの言葉がわからないから困る。専門の日本語がわからない。しかし、このような心配事があっても、同僚のベトナム人研修生、日本人の看護師に聞いたり、仕事を教えてくれる自分担当のベテラン職員に聞くなどで、この悩みも解決している。

(4) 日本語の学習意欲

Hさんは、日本語の学習意欲は以前より強くなった。なぜなら、日本で暮らしたいからだ。また、言葉がわからないと面倒だから、学習意欲が強くなった。また、Rさんは、日本語の学習意欲は一時弱くなった時期があったものの、トータルでは強い。日本、日本語が好きだからである。一方、Kさんは学習意欲が弱くなった。N3を取り、目標がなくなったからだ。将来も日本にいたいという気持ちが強いため、Hさん、Rさんは学習意欲が強いのだろう。

(5) 将来の夢

Hさんは、ここでずっと働きたい。介護福祉士の資格を取ったら、日本で仕事がずっと

できるので、勉強しなければならない。息子を日本へ連れてきたい。また、Rさんも日本が好きなので国に帰りたくない。今、勤めている老人介護施設をもっと大きくしたい、会社に貢献したいと、2人とも介護の仕事が好きで、ずっと日本に住みたいと思っている。

一方、Kさんは、介護福祉士になって10年ぐらい働いてからベトナムに帰り、帰国後は他の仕事がしたいと思っている。

来日当初から介護が好きで、できればずっと日本に住みたいと言っていたHさん、Rさんは日頃の仕事に対する態度もよく、きっと、日本にいたいという夢を実現するのではないかと思われる。

6-2. 日本人介護職員

2人の日本人介護職員は、ベトナム人介護職員は人材不足解消になり、また、日本人職員の労働力軽減につながり、大変助かっていると言っている。

ベトナム人実習生のことを、よく働き、明るく、優しいので介護の仕事に適している、真面目で、素直で、文句も言わずに要望に応じてくれると評価している。職場にも溶け込み、みんなからも好かれており、上司にも長く勤務してほしいと思われており、本当に幸せである。

確かに、若くて体力もあり、お年寄りにも優しく、話し方も優しく、優しく接してくれれば、日本人のお年寄りにとってもいい。これは、ベトナムという家族の絆が強く、今でもお年寄りを家で面倒を見るという環境に育ってきた若者だから、そのような態度をとることができるのではないかと思われる。

また、入所時に比べると、日本語が十分上手になり、職員にも利用者にも通じ、介護に必要なコミュニケーションは取れている。しかし、深いところのコミュニケーションはできていないと指摘している。わかったと言っているが、実はわかっていないところも多少ある。

もっと深いところでコミュニケーションしたいのなら、もっと勉強した方がいい。お年寄りの言うことに耳を傾け、それに対して答えられることが大切だと言っている。

確かに、日本人職員のYさん、Kさんの言うとおりのことである。しかし、日本語の勉強を初めて2～3年のベトナム人実習生に、そこまで求めるのは酷だと思われる。日本語という言葉ではなく、優しい態度などで十分ではないだろうか。

最初は言葉も通じないし大丈夫かなあと思っていたが、今は自信に満ちて仕事をし、日本人と同じような感じで本当にありがたい存在で頼りにしている。ずっと日本にいて介護の仕事をしてほしいと思っている。

この施設のベトナム人介護実習生は、真面目に働き、老人介護施設で頼りになる存在になっている。これは日頃の実習生の努力の賜だと思われる。しかし、この施設での日本人職員のサポートがいいからこそ、ベトナム人実習生も頑張っているのだと思われる。

7. おわりに

日本は高齢化社会で、今後ますます外国人の介護職員が必要とされると思われるが、今回調査した老人介護施設のベトナム人介護実習生のように、施設から頼りにされ、また、実習生もこの施設でずっと働きたいという関係は理想である。

実習生が来日したばかりの時だけではなく、3回にわたって調査することができたのはよかった。なぜなら、最初の現場で大変なことが、2回目、3回目と回を追うごとに大変なことが解決されていくのを知ることができたからだ。何でもそうであるが、経験は重要であることを改めて感じた。実際に現場でインタビューしてから2年以上が過ぎている。ベトナム人介護実習生が、今どうしているのかを知りたい。

謝辞

本研究は、東海地方にある老人介護養護施設の経営者、職員、ベトナム人技能実習生の皆さんの協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。

引用文献

内閣府「高齢化の状況と将来像」『令和7年版高齢社会白書』2025年、pp. 2-5
厚生労働省「2025年に向けた介護人材にかかる需要推計（確定値）について」『Press Release』2015年
久留須直也「外国人介護人材の受け入れ施策と課題—先行研究レビューと外国人介護人材の受け入れ施策の分析から—」『鹿児島女子短期大学紀要』62、鹿児島、2025年、pp. 37-43

参考文献

大槻薫子「介護に従事する技能実習生のコミュニケーションの現状と課題—技能実習指導員へのインタビュー調査から—」『ことば』45、2024年
小澤薫「ベトナム人技能実習生の仕事と暮らしに関する研究—新潟県における多文化共生推進の調査結果から—」『経済学論纂』（中央大学）66-1、2、2025年
佐治早紀「介護施設の利用者とベトナム人技能実習生はどのように良好な関係を構築していったのか—初めて外国人介護人材を受入れた施設の事例から—」『一橋大学国際教育交流センター紀要』6、2024年
ティンティンカイン・大島一二「来日技能実習生が直面している現実と課題—ミャンマー人技能実習生アンケート調査を中心に—」『桃山学院大学経済経営論集』67-1、2025年